

AJF Symposium
Exploiting technologies for personalised and precision medicine

創薬科学研究科 D1 今井 祐太

<渡航先>

オーストラリア（アデレード大学、ボンド大学）

<渡航期間>

2019/12/15~12/22

<渡航目的>

融合研究の打ち合わせ、アデレード大学の見学、シンポジウムでの発表（発表日 12/18）、ボンド大学の見学

<概要>

- (I) 2箇所の大学及び研究施設 SAHMRI の見学をしました。
- (II) オーストラリア、アデレード大学で開催された AJF Symposium に参加しました。本シンポジウムは、医療のための評価方法やその技術の展望に関するもので、私は画像解析を用いた神経変性疾患の薬剤スクリーニングについて、自身の研究成果を口頭発表しました。

本期間を通じてアデレード大学の Scott Smid 博士と、ボンド大学の Rissell Chess-Williams 博士との細胞画像解析技術の神経細胞評価に向けた融合研究の打ち合わせを行いました。

<所感等>

本渡航中は、オーストラリアでは夏であり、40度を超える日もありました。

- (I) 研究施設見学では、まずその規模の大きさの違いに驚きました。特に SAHMRI という研究施設は南オーストラリアで医療研究の主力を担っている施設であり、人数もかなり多く、実験室にかけているお金も違うように感じました。ここではちょうど日本からジョイントディグリーで博士を取りに行かれている先生とお会いすることもでき、どのような施設であるのか詳しく聞く事ができました。
研究者に対する面では、少しだけ日本は遅れてしまっているかなというのを実感しました。
- (II) シンポジウムでは医療関係の先生方の発表もあり、自分とは違う分野での医療のための研究を知るいい機会になりました。またアデレード大学の現地の学生ともランチの時間やシンポジウム後にお話する機会があり、自身の研究について発表時の質疑応答よりも、深い議論をすることができました。

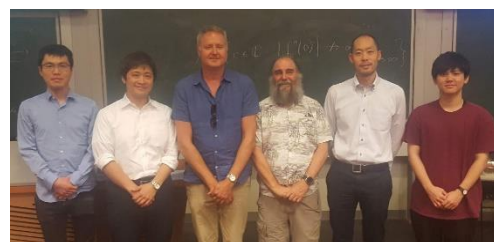
本シンポジウムの主催者を務めていただきました Dr. Scott は神経疾患の薬剤探索を実際に行っている先生で、私の研究ともつなげられるのではないかと感じました。普段の環境とは違う研究施設の見学や発表の場はとても刺激的でした。広く様々な場所を見られる良い機会となり、その重要性を実感しました。



SAHMRI 外観



ボンド大学
Faculty of health science
and medicine



シンポジウム発表者